

門松ものがたり vol.01



1970年代 糸満市阿波根農場（現在の南部支社）

桃原農園の手作り 門松ができるまで

新しい年を迎える門松を、一つひとつ丁寧に手作業でお作りしています。

私たちは1970年代から門松づくりに携わり、受け継がれてきた技術と工夫を大切にしながら、今も変わらず作り続けています。

見た目の美しさだけでなく、安全に飾っていただけることにも配慮し、素材選びから仕上げまで、すべての工程に意味を持たせています。

これまで積み重ねられてきた多くの先輩方の知恵と工夫、その歴史を受け継ぎながら、一つひとつ丁寧に仕上げています。

1、素材選び



門松に適した竹は県内での確保が難しいため、毎年、九州から海上輸送で取り寄せています。竹林から運び出す際は、引きずって傷が付かないよう、細心の注意が払われています。



松は県内北部地域で育てられた琉球松を使用しています。専門農家が、台風などの災害で傷まないよう、1年間かけて管理した松を使用させていただきます。

海を越えて届く竹

門松は素材によって印象が大きく変わるため、竹・松・飾り一つひとつ手に取り、状態を見ながら選んでいます。同じように見える素材でも、実際に使用できるものは限られています。

海を越えて届いた竹の中から、さらに状態の良いものだけを選び、仕上げに使用しています。

手間はかかりますが、素材の質にこだわるのが、全体の品格につながると考えています。



次号へつづく。次号掲載予定日：5月22日

門松ものがたり vol.02



ベテランから若手へ、受け継がれる職人の技

門松づくりの原点 職人の手仕事

門松づくりは、竹を組み立てる前の「下準備」に最も時間と手間をかけています。特に、土台となる樽にワラコモを巻く作業は、一つひとつ手作業で行うため非常に手間がかかり、毎年8月頃から順次制作を始めています。見た目の美しさはもちろん、長期間きれいな状態で飾っていただけるよう、細かな部分まで丁寧に仕上げています。こうした下準備をしっかりと行うことで、完成後の門松の安定感や品格につながっています。

2、土台づくり・竹の加工



土台の樽には、昔ながらの風格と趣を大切にしたいという思いから、ワラコモを丁寧に巻き、伝統的な佇まいを表現しています。運搬時にも形が崩れないよう、力を込めてしっかりと巻き上げています。



太さを選別した竹を、サイズごとの長さに切りそろえていきます。竹の表面に傷をつけないよう丁寧に作業を行いながら、状態の良い竹を見極める目利きも欠かせません。

門松の『顔』をつくる技

竹を斜めに切り上げる工程を斜切りといいます。職人はこの斜めの切り口を「顔」と呼びます。桃原農園の門松は、顔を長く仕上げるのが特徴で、その美しい斜めの顔は一番の特徴でもあります。短くすれば使用する竹を抑えることもできますが、美しさにこだわり、あえて長い顔で切り続けています。一本一本異なる竹のゆがみを見極めながら美しく長い顔を作るには熟練の技が必要です。



次号へつづく。次号掲載予定日：6月5日